

「心のノート」の効果的な活用

子どもの道徳性を育むための資料である「心のノート」は、自らの生き方について考えたり、自分の気持ちを記録したりするために役立てるとともに、学校・家庭・地域との架け橋としてなど、多様な活用が考えられる。そのため、学校や子どもの実態に応じて計画的な活用に努めることが大切である。

1 「心のノート」の活用場面と活用方法

<活用場面>

(1) 日常生活の中で

- ・朝の会・帰りの会での話し合い
- ・朝読書の時間 < P34 実践例参照 >
- ・学校・学級掲示板など
- ・家族との話し合い
- ・長期休業中の心構えなど

<活用方法例>

- ・朝や帰りの会などで継続的に活用することで、自分の考えや行動の変化に気づく。
- ・「心のノート」の、名作からの言葉をきっかけに、読書への興味・関心が喚起される。

(2) 各教科の学習内容に関連させて

- ・美しさを感じる心を大切にする
《図画工作・美術》
- ・文化や伝統に触れ愛情を深める《社会》
- ・生命尊重の気持ちを深める《保健体育》
など

- ・活動したことを振り返ったり、やりたいことを見つけたりするときに生かす。
- ・「心のノート」に書き留めた感動を話したり文章にすることにより、伝え合う力を高めたりする。

(3) 特別活動で

- ・学級活動
- ・進路指導，児童会・生徒会活動
- ・学校行事，自然体験活動 など

- ・学級活動で、望ましい人間関係について考えるための資料として生かす。
- ・「心のノート」のポスター的側面を生かし、掲示するなどして学校行事への参加意欲を高める。

(4) 道徳の時間で

- ・導入・展開・終末・事後などでの補助的な活用
- ・体験や意見の交流場面での活用

- ・ワークシートに使用したり、授業の導入やまとめに使用する。
- ・事前に取り組み、意欲付けに活用する。

(5) 総合的な学習の時間で

- ・国際理解，情報教育，環境問題
- ・福祉・健康（ノーマライゼーション）
など

- ・子どもが多様な課題の中から学習課題を設定する時の情報として生かす。
- ・様々な課題の中で、自分の生き方を考えることができるようにする。

(6) 学校，家庭，地域との連携場面で

- ・各種通信，保護者懇談会
- ・異校種との連携・交流，家族との交流
- ・生徒理解の深化

- ・通信や保護者会で、プライバシーに配慮しながらの話題提供，一緒に考えるきっかけづくりとする。

2 「心のノート」の活用における留意事項

「心のノート」活用に当たっては、次の点に留意したい。

- (1) 子どもが日常的に活用できるよう工夫する。
- (2) 各教科等において、その学習の特質に即して適切に用いる。
- (3) 継続的、発展的に用いることができるようにする。
- (4) 子どものプライバシーに配慮する。
- (5) 保護者や地域の人々の協力が得られるようにする。

「心のノート」の活用例（朝の会の活動場面の様子から）小学校第3学年

月曜日の朝、挨拶の場面で、子どもたちが休みの疲れからか、元気のない挨拶をした。

T「どうしたかな、元気のない挨拶だね。」

S1「先生、まだ、ねむたい。」

S2「疲れちゃった。」「今日はあいさつなしにしよう。」

T「疲れたって、まだ、朝でしょう。（月曜日の、朝だからな,,,）」

T「もし、挨拶の言葉がなかったら、どうなっちゃうかな。」

T「そうだ、心のノートを開いてごらん。」

「心がかよい合う「あいさつの言葉」《小学校中学年36ページ》

クロスワードに挑戦させる。 S「いろんな、挨拶の言葉が、あるんだね。」

S「わたしの、知らない言葉もある。」

子どもたちは、自分が書いた挨拶の言葉を、つぶやき始める。

T「どんな気持ちになりましたか？」 S「なんか、いい気持ち」 S「心がつながる。」

S「ただ言うだけじゃだめだよ。気持ちがなくちゃ。」

S「先生、私のまわりには、私の知らない、いろいろな光る言葉があるんだね。」

T「先生や周りのみんなにも、気持ち伝えてほしいな。」

もう一度、挨拶をする。ただ声が大きいただけではなく、まっすぐ前を向き、笑顔での挨拶が返ってきた。子どもたちの、気持ちが伝わってくるようだ。

心のノートの活用場面

道徳の時間の展開にも利用し、子どもの道徳性をさらに高めていく。

ねらい 2 - (1) 礼儀の大切さを知り、だれに対しても真心をもって接する。